

桜真

NO.41

2016(平成28)年2月22日発行
 岩瀬日本大学高等学校
<http://www.tng.ac.jp/iwase/>
 父母と教師の会
 〒309-1453
 茨城県桜川市友部 1739
 TEL 0296-75-2242
 FAX 0296-75-4905



動物園ではいチーズ!!



2泊3日のファームステイで異文化交流



歴史あるキュランダ鉄道に乗車

かわいい

オーストラリア修学旅行



Happy



フレンドリーな現地の方々と



アボリジニ文化を体験・ブーメラン投げ



キュランダ鉄道で途中下車

オーストラリア 修学旅行

思い出

日総2-2 中山 裕貴

11月8日から5日間、2年生がオーストラリア修学旅行に行ってきました。キュランダ鉄道や世界遺産のグリーン島の観光。また2泊3日のファームステイでは心温まるホストファミリーとの交流がありました。多くの生徒は初めての海外旅行で英会話にも不安があったようですが、最後にはファミリーとの別れを惜しむ姿が見られました。さらにケアンズ市内研修では英会話に挑戦して語学力を高めました。

これらの忘れられない思い出の感想文を紹介します。



私たちは修学旅行でケアンズに行きました。私は一度も日本を離れたことがなかったので、出発前は不安と期待でいっぱいでした。しかし、みんなと楽しく話しながら行動しているうちに不安はなくなりました。

私が修学旅行で印象に残っていることは2つあります。1つはファームステイです。実際に行ってみると遙か先までが敷地で、軽トラックの荷台に乗り農地を走り回って、農作業のお手伝いをしました。夜にはホストファミリーとゲームをしたり、とても楽しかったです。機会があれば、またあの優しいご夫婦に会いに行きたいです。

2つめはケアンズの市内研修です。私たちは市内のスーパー等を回り、家族や友人のお土産で両手もリュックも埋まっちゃいました。夕食は市内でも人気のアウトバックジャックスに行き、英語で注文しました。とても緊張しましたが、今まで食べてきたどのチキンよりもおいしく感じました。

今回の修学旅行では、たくさんのみんなの思い出を作ることができました。

NU祭 企画賞受賞

国立・特進2年6組

「茶茶茶茶 rming Tea」

『笑顔の企画賞受賞』

2年6組担任

宮崎 俊弘

このたびNU祭ビデオ発表会におきまして、第3位にあたる、「企画賞」を受賞することができました。ご協力いただきました方々に感謝申し上げます。

NU祭ビデオ発表会は、大学の全ての部科校（学部・付属校等）の文化祭企画をそれぞれ2分の映像作品にまとめ、「NU祭総合閉会式」で発表するものです。全部で40の文化祭が、映像作品という形で市ヶ谷（東京都）の日本大学会館に集まります。



発表会では、それぞれの学校の代表生徒が自校紹介をした後に、ビデオ上映をします。自校紹介をする生徒は、各校の文化祭の実行委員や放送部、生徒会役員などさまざまです。

岩瀬日大の代表生徒は、例年、桜瑛祭の展示部門で1位のクラスが務めることになっていました。今回は、国特2年6組が代表として参加して参りました。

今回、ビデオの素材となったのは写真です。桜瑛祭の準備や当日の様子を写した膨大な量の写真を使いました。制作にあたり、写真を整理していると、そこにはたくさんさんのすばらしい笑顔がありました。どの写真も、

生徒も先生も保護者も来場者も

みんなすばらしい笑顔でした。

文化祭の中心である、生徒たちに関して言えば、その笑顔に至るまでに、大変な苦労があったと思います。どの生徒もそうでしょう。涙あり、怒りあり…：笑顔だけではなかったと思います。それぞれの家庭に悩みを持ち帰ることもあったのではないのでしょうか。しかし、いろいろな人に支えられながら、最終的に笑顔を咲かせることができました。それが今年のNU祭のテーマでもある、「『櫻花爛漫』」にも繋がると思います。

今後も、岩瀬日本大学の伝統として、笑顔の桜瑛祭が続いていくことを祈念いたします。

部活動

卓球部

関東選抜大会

【男子団体】10位

*右の結果により3月郡山総合体育館(福島県)で開催される全国高校選抜大会への出場権を獲得しました。



全日本選手権ジュニアの部
県予選兼茨城県卓球選手権

【男子シングルス】優勝

長山 拓巳(日総2・4)

【男子ダブルス】優勝

長山 拓巳(日総2・4)

高塩 晴貴(日総1・3)

【男子ダブルス】準優勝

大津 龍哉(日総2・2)

池田 知紘(日総2・1)

県新人卓球大会

【男子団体】優勝

東京卓球選手権ジュニアの部
県予選

【男子シングルス】優勝

長山 拓巳(日総2・4)

剣道部

県高校剣道新人大会

兼全国選抜予選大会

【男子団体】ベスト8

【女子団体】準優勝

茨城新聞社旗争奪全国選抜
高校剣道大会

【男子団体】3位

【優秀選手】

梅落 太郎(日総2・3)



県高等学校剣道勝ち抜き大会

【男子団体】ベスト8

【女子団体】準優勝

【五人勝ち抜きで表彰】

神郡 啓太(日総1・4)

【六人勝ち抜きで表彰】

落合ひかり(日総1・1)

ソフトテニス部

イバラキサマーカップ

【男子個人】準優勝

北原 成悟(総合2・5)

野村 渉太(日総1・1)

【男子個人】3位

高橋 直己(日総1・1)

上野 陸哉(日総2・1)

県新人大会

【男子団体】ベスト8

【男子個人】準優勝

高橋 直己(日総1・1)

上野 陸哉(日総2・1)

【男子個人】3位

青木 雅矢(日総1・2)

高松 廉(日総2・2)

硬式野球部

全国高等学校野球選手権大会

2回戦 対伊奈高校1-0

3回戦 対石岡一高0-7



陸上部

県高等学校陸上競技新人大会

【女子砲丸投げ】7位

松岡 則花(国特1・5)

水泳部

湘南オープンウォータースイム

【高校生の部】優勝

廣瀬 海(日総1・2)

バドミントン部

県新人大会県西部地区予選

【男子団体】優勝

【男子シングルス】優勝

大吉 渉(日総2・3)

【男子ダブルス】優勝

大吉 渉(日総2・3)

ライフル射撃部

阿久津理来(日総2・3)

【男子ダブルス】4位

永盛 慎悟(日総2・2)

齊藤 雅伸(日総2・2)

【女子団体】4位

県新人大会

【男子団体】ベスト8

県新人大会県西部地区予選入賞

海老沢一樹(日総2・4)

小森 瑞生(日総2・4)

柏 翔一朗(日総1・1)

*右の結果により茨城県新人大会への出場を決めました。

全国高校ライフル射撃競技大会

【ビームライフル男子立射60発競技】14位

江田 和樹(日総3・3)

*右の結果により9月に行われるJOC(ジュニア・オリンピック・カップ)の出場権を獲得しました。

江田 和樹(日総3・3)

新聞部

全国高等学校総合文化祭

2015滋賀びわこ総文参加

染野 真輝(日総3・2)

渡邊 貴之(日総3・3)

伊藤 咲羽(国特3・6)

茨城県高等学校新聞コンクール
優秀賞「岩日タイムズ」

*右の結果により全国高等学校総合文化祭2016ひろしま総文への参加が決定しました。

2年連続の全国大会出場です。

県高等学校総合文化祭参加

山井 彩菜(日総2・2)

後藤 多瑛(日総2・1)



美術部

日本大学NU祭

【絵画部門】校友会特別賞

高安 志織(国特3・7)

県高等学校総合文化祭絵画の部

高安 志織(国特3・7)

角田 亜美(日総1・3)

税の作文会長賞

山口 悠作(日総1・3)

「夢を叶える方程式」

校長 齊藤克朗



待ちこがれていた春、春光がふりそそぎ暖雨に誘われて野山の草木も芽を吹く準備に入っています。これ全てがありがたい天地の恵みであり、その息吹とともに私たちも新たなスタートへの準備を始めます。

三年生は、これまで様々な囲いの中で守られてきた環境から脱皮し、洋々と開かれた世界に巣立って行きます。何事も自分の意志で自由に選択ができるかわりに、今後の人生の全てを自らの責任で切り拓いていくことになりません。そこで、次代の担い手となる君たちに次の3つのことを心にとどめ人格形成に努めてくれることを望みたいと思います。

「常に思慮深くあれ！」

「自ら行動する勇氣をもて！」
「行動の結果を引き受ける強さをもて！」

ということである。こうした自己行動への責任を身につけることが、これからの人生を素晴らしいものにしてくれるでしょう。

次に、岩日生としての高校生活が続く在校生の皆さんに、希望と期待に胸躍らせて入学してきた頃の「初心」をもう一度思い浮かべて欲しいと思います。

夢や希望を実現させたいということは誰しも願うところですが、それに向かっただ最大の努力ができていないだろうか、前進していかないかを自問して欲しいのです。感性豊かな高校時代は、それぞれの目標を叶えるために必要な知識や体力を蓄える時

あり人間として大きく飛躍する最高の機会なのです。これからの全ての時間を、皆さん一人一人の成長に、あるいは成功への基盤づくりに有効に使っていただくことを望みます。

成功を夢みる時、世の中には二種類の人間が存在します。「何かを成し遂げようと行動を起こす人」そして、「ミスを極力避けようと行動を避ける人」、この二つの行動形態は後々大きな差となって表われます。加えて、人には前記の行動形態の存在とともに人生を歩む上で様々な選択の場面が生じてきます。何を選ぶかによって、その後の人生が大きく変わってしまうのです。学業をいつまで続けるか、どんな職業に就くか、誰と結婚する

か、どこに住むか、今日は何をするかなど、中でも最も重要な選択は「どういう人間になるかということ！」です。また、その夢や希望を実現するには到達への手順も存在します。「夢を叶える方程式」というものです。

夢や希望を現実のものにするには、それを叶えられる人間として相応しい自分にならない限りなりません。勿論、求めているものの大きさによっても努力の度合いに違いがでてきます。まずは自分自身を目指しているものが可能になるレベルに資質を高めることが必要で、その努力の過程を精神的自信に変えながら次のステージへ向かっていく勇氣や活力に繋げていくことが重要なのです。

つまり、単なる夢や希望が、「叶えたい、到達したい。」という強い信念に変わった時に成功するチャンスや進むべき方向が見えてきます。そうした気持ちを常に持ち続け、前向きに行動へと移行しようとする姿勢と、自分の能力や位置を理解し、所属している組織や仲間の力をどう生かしていくかなど、その全体コントロールが成功への方程式になるのです。

いずれにせよ、やがて来る未来は、貴方たちが時代の主役でリーダーになっていかなければなりません。未来に向かって、一人一人がさらに精進し、自己実現とともに素晴らしい社会の形成者として邁進してくれることを期待しています。

同窓会より活動のご報告

同窓会

同窓会理事 仁平 賢司

残暑厳しい8月15日、「岩瀬日大高校同窓会プレゼンツみんなで飲みましょう会」が開催されました。

当日は、合計150名余りが集い、かくも盛大な同窓会の開催となりました。第1期〜第3期までの卒業生、延べ6937名の内、141名「男性83名、女性58名」の出席と、退職された中嶋靖司先生、大月光司先生、大久保康和先生、市毛美喜男先生、長谷川潤先生、そして青木泰徳教頭先生はじめ現職の先生方にも、来賓としてご参加頂きました。

このように多数のご出席を賜り、大変賑やかな会になりました。ことは、ひとえに、皆様方の同窓会への温かいご理解とご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

今回の「飲みましょう会」は同窓会の総会並びに懇親会のよくな定例の集まりとは異なり、今までそれらにご参加頂けなかった方やお盆休みに帰省中の方にも気軽に足を運んで頂けるような会を開催したいという主旨



で、幸田副会長より企画・立案されたものでした。

そのねらい通り、卒業して年数の浅い学生方や、社会人に成り立てのフレッシュな方などが、当時の校長先生や教頭先生とお酒を酌み交わしたり、楽しそうに会話する姿を見て、主幸側としても大変嬉しく感じた次第です。

基、同窓会としての趣旨は村木会長が掲げる「素晴らしい母校の発展のために協力し、在校生、卒業生の活躍のための支援」が目的です。平成14年に土浦日大高校同窓会より分離独立以来、学生への奨学金制度、部活動支援補助金制度の発足、新入生への校歌CDの配布、土浦日大中等設立支援、東日本大震災による校舎修繕支援、各卒業年度同期会への支援制度などの活動を行って参りました。今後、時代の流れに即した



同窓会活動を行っていく所存です。今回の「飲みましょう会」に参加できなかった同窓生の皆様にも、機会がありましたら、次回、是非ご参加いただければ幸いです。

このような同窓会活動を通じ

で、学校関係各位や地域社会により一層貢献していけたら、岩瀬日大高等学校の発展の一助となると思っております。今後とも、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。ご報告とさせていただきます。

生徒会役員任命式

10月13日(火)



「挑戦」

生徒会長

日総2年1組 須鎌 瑛仁

こんにちは。新たに生徒会長をさせて頂きたく、須鎌瑛仁です。私は、昨年度から生徒会の一員として活動してきました。その中で先輩方から教わったことを生徒会活動で活かしたいです。さらに、新しい生徒会では様々な私たちの色を出すために、多くのことに挑戦したいと思います。そして、前回の生徒会よりも高く飛躍します！

最後に、私たち生徒会の活動によって、岩瀬日大の未来がより明るくなるように頑張ります。皆様、応援よろしくおねがいします。

成人教育

研修会報告

「日大商学部見学」

成人教育委員長

吉村 美香

去る10月31日、成人教育研修会を実施いたしました。

今年には日本大学商学部の見学とお台場にて昼食会、自由散策を行いました。保護者29名、生徒2名、齊藤克朗校長先生、担当の先生方がご参加くださいました。

東京都世田谷区砧にある日本大学商学部は、緑豊かで閑静な住宅地に位置しています。2012年から建設を進めていた本館が2014年9月にオープンし、ガラス張りでスタイリッシュなセミナールームや研究室、オープンスペース、教務課、学生課、就職指導課などの事務室があります。学内の至る所に設置されているテーブルや椅子等、ホテルのロビーのようなオシャレなものばかり。座るのを躊躇してしまうほどでした。外目をやると、中央に大きな噴水「勇気の泉」があり、噴水を取り巻く芝生広場は学生たちの憩いの場になっています。校舎



は壁面緑化や太陽光発電、植物への雨水散水利用システムなどを導入、耐震性にも優れた設計になっているそうです。学生たちが安心して、しかも快適に過ごせる学舎だと確信できました。

この日はちょうど文化祭。

第45回砧祭が開催されました。学生たちの賑やかな声が学内に響いていました。展示室では各研究会や同好会の展示物や実演等が見られました。地域の方々が主催したフリーマーケットや数々のイベント、学生たちの手作りの模擬店が並び、まわりきれいな程でした。学生たちの威勢のいい呼び込みに、昼食会のことを忘れて買ってしまった。

活き活きとした学生たちの顔、素晴らしい校舎、それらを見ることができ、とても満足でした。

砧見学後はお台場へ移動。昼食会では、先生方、保護者の方々とゆつくり話すことができ親睦を深められたと思います。短い時間でしたが、楽しく充実した一日でした。

成人教育研修会は毎年開催しております。これからも是非、ご参加くださいますよう、よろしくお願いいたします。

「支部活動を振り返って」

桜川支部

支部長 勝田 晃

岩瀬日大高校の地元支部で、大所帯の桜川支部長に選任されたいは、戸惑いと不安もありませんでした。しかし先生方の丁寧な指導と会員の皆様よりのアドバイスやご協力をいただいたお蔭で無事大役の終わりを迎えられる。この場をお借りして深く感謝とお礼を申し上げます。

振り返りますと、支部総会や地区懇談会では校長先生を含め多くの先生と会員の皆様が出席され、私達の知りたい学校方針や生活近況・進路など色々な情報が得られ大変役立ちました。年度当初の桜瑛祭では、子供達と接し自立性を見ることができ私達も模擬店で支部の一体感が生まれ、他支部との交流も深まり実りあるイベントでした。支部懇親活動でも、先生方や遠方の会員の方に参加頂いたことが支部長として感銘いたしました。活動を通して自分自身も成長できとても有意義な一年でした。

最後に、岩瀬日大高校並びに父母と教師の会の今後の更なるご発展をお祈りいたします。

「支部活動を通して得たもの」

下館支部

支部長 坂寄 誠

私の支部活動も二年目となり本年度は支部長としての大任を務めることとなり、様々な行事を通して会員の皆さまや先生方の絶大なるご協力のお蔭で、大変貴重な経験をすることが出来ました。これに対して、皆さま方に深く感謝と御礼を申し上げます。

今年度を振り返ってみますと支部総会並び懇親会に於いては、教頭先生を始め各先生方と熱心に学校生活や進路相談などを、ご指導戴けたのも子供達のことをよく面倒みて貰える学校なのではないかと思っております。

そして一番印象に残るのは、桜球祭ではないでしょうか？

模擬店を盛り上げるために、準備の段階から会員の皆さま一人ひとりがあれもこれもと積極的に取り組んで戴き、色々と支え合い助け合いにより、大変立派な模擬店となり、売上達成に大きく貢献できて、それと同時に下館支部内での絆を得ることが出来ました。

最後に来年度に向けて、会員の皆さまや岩瀬日大高校の更なるご発展を祈念致します。

「素敵な時間をありがとう」

県西支部

支部長 西村 聡

我が子の高校生活も、あと数日を残すばかり。実は私も、我が子と共にこの学校を卒業する、今そんな心境です。

三年間、父母と教師の会の支部役員として、特に本年度は支部長という大役を仰せつかり、学校行事や支部事業に関わらせていただきました。この三年間を振り返り、その感想を一言で表すなら、それは「楽しかった」という言葉です。優秀で面倒見の良い先生方、共に協力し合い活動した支部役員の皆さま、そして、とても素直で誠実な生徒の皆さまとの素晴らしい出会い。

皆様とのつながりの中で流れた時間は、あたかも私自身が高校時代にタイムスリップして、我が子と共に学園生活を謳歌したかのようにも思える、心に残る素敵な時間でした。

最後に、素晴らしい人たちの出会いと素敵な時間をプレゼントしてくれた我が子に感謝。今年度一年間、頼りない支部長を支えて下さった支部役員と保護者の皆さまに感謝。そして、親子共々、熱心なご指導を賜りました先生方に感謝です。

「支部活動を振り返り」

ときわ支部

支部長 梅落 秀幸

今年度支部長として活動をしてきて、あらためて振り返ると、学校・先生との関わりがとても身近で親近感を感じることが多くありました。

その最たるのが6月に実施された「桜球祭」のときわ支部伝統の焼き鳥屋台出店です。

子供達の文化祭に親が関わる事、ましてや、屋台を出店するなど自分の高校時代ではない事でした。事前準備から当日の焼き鳥作りに支部の親65名が参加してくれました。2日間で3900本の焼き鳥を煙と格闘しながら焼いてくれたお父様、味付けと販売を担当してくれたお母様達の頑張りで無事に完売することが出来ました。

沢山の生徒たちが買いに来てくれ、美味しいと言ってくれた事がとてもうれしく、親が学校行事に関わる重要性や、学校との距離が身近な事がこの学校の良さだと改めて思うことが出来た1年でした。



「三年間の支部活動を経て」

北つくば支部

支部長 金澤 雅美

岩瀬日大高校に入学が決まり喜んでいたのもつかの間で子供が三年生になる年には支部長を務めるという前提で、私の支部活動はスタートしました。

初めての支部総会に出席した時には、とても雰囲気重々しく、堅苦しいもので私にはとても務まらないと落胆してしまいました。

しかし、逃げ出す訳にはいかず少しでも場に慣れておこうと役員会や桜球祭にも積極的に出席しました。

学年が進み役員の方も入れ替わり、桜球祭の準備や活動も、楽しむ余裕も出てきました。

先生方や他の学年の父兄の方とも交流が持てたので、学校の事、進学の事など、たくさん情報を得ることが出来ました。

そして三年生になり、支部長の立場に立つてからも本当に周りの役員の方々の協力に支えられ今まで務めてくる事ができました。私の中では、支部長という大役は重責ではありましたが、いい経験になったと思っております。



「一年間を振り返って」

栃木支部

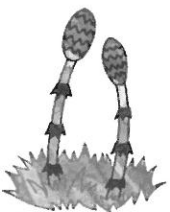
支部長 村田 博司

栃木支部の会員は年々増加し、今年度は135名と最大支部になりました。これは中学校での進路指導や高校の先生方の熱心な御指導のたまものです。

息子の入学前に、知り合いから、「岩日の先生方は、命懸けだから実感として伝わってきます。それくらい熱心に御指導いただいたという意味です。」

同時に、会員の皆様が桜球祭や懇談会、研修会等への、多数の参加・協力を通して、高校生活のこと、卒業後の進路のことなど、様々な情報交換をしてきた成果ではないかと思ひ、感謝の気持ちでいっぱいです。

このように、精力的に御支援いただいた結果が高校の好評価となり、会員の増加につながっています。高校が良くなれば我が子も良くなり、それを会員の皆様が支えるという理想的な形でした。会員の皆様の温かい御支援に、改めて深く感謝申し上げます。一年間お世話になりました。本当にありがとうございました。



贈る言葉

「ありがとう」

日大・総進3学年主任

土屋 栄 弘

春が近づき始め日脚が徐々に伸びてきました。3年生諸君は各々次の段階に向かい一歩一歩進んでいることと思います。

さて、皆さんはこれからそれぞれの道を行んでいくわけですが、長い人生で色々な人と接することでしょう。当然、イライラしたり、納得できなかつたり、時には面と向かつて強い口調で非難したくなる状況もでてきます。その時は、何か行動をおこす前に心の中で「ありがとう」と言ってみてください。人は十人十色、自分の考えとは違う人は当然います。その度に相手に非難し仲違いをしていたら、もしかしたら気づいたときには周りに誰もいないかもしれません。勿論、常に我慢し自己主張をしないことが良いわけではありません。ただし、自分の考えが必ずしも正しいとも限りません。まずは冷静になつて判断する事が大切です。この言葉と言つ

「三年生のみなさんへ」

国立・特進2/3学年主任

井上 隆 一

三年生のみなさん、卒業おめでとう。また、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。心よりお祝い申しあげます。国立クラスのみなさんにおいては、まだ進路が決まっていなくても多い中での卒業式ですが、時間があつたら読んで下さい。

よく耳にするかもしれませんが、もし人生を旅に例えるならば、君たちは今まさに旅立ちとうとしていくところかもしれません。旅の準備は万全ですか。旅をするとき、人はスーツケースに荷物をたくさん詰めますが、実は荷物の中身は、さまざま「思い」なのではないでしょうか。きつと今は不安や期待という思いが詰まっていることでしょうか。

た後で、もしまだ納得できないのであれば相手に話ししましょう。でも「ありがとう」を言う前には自分の方から口調により受け入れられずです。相手もあなたの口調により受け入れられずです。また自分が正しくなかったという結果だったとしても、相手があなたを受け入れる気持ちに厳しくないかもしれません。話し合っても、納得できなくても気にしないで下さい。先ほど話したように人は十人十色なのです。相手がいるからこそ自分の考えを生かせるのです。

相手に信じられるには少ない時間では無理です。でも、相手と絶交するのは一瞬で成立してしまいます。

皆さんは今後今まで以上に適確な判断が求められるでしょう。だからこそ誰に対しても、「ありがとう」と思う気持ちで接することがとても大切だと思っています。

一人一人の更なる飛躍を期待し、そして信じながら生徒諸君を本校から見送ります。

さて、私は「旅」が大好きです。その理由のひとつは、人との出会いです。旅先で出会った人との時間は、まさに非日常。世界中の人との会話は絶景を見たとき以上の感動があるのです。そしてその出会いが、私を刺激し、進む道を変え、今の私があると信じています。

三年生のみなさん、この先の人生、できることなら「旅」をしてください。そして、たくさんのお会いをしてください。みなさん自身が経験することは、これまで得てきたどんな知識よりも大切なものになるはずですよ。

そして、十年後、二十年後、人生という旅の途中に、いつでもここ岩瀬日大に立ち寄って、「旅」の話聞かせてください。

そのときは、スーツケースにはどんな「おもい」が詰まっているのでしょうか。

3-1の皆さんへ

日総3年1組担任

谷津 直秀

卒業おめでとう！
色々あったけれど、楽しい2年間でした。皆さんのこれから的人生は、とてつもなく広々とした大地を歩き回る作業と、自分の決めた地点を深く深く掘り下げていく作業の連続になるのではないかなと思います。高校生活と同様に色々なことがあると思います。ゆつくりと時間をかけて歩んでほしいと思います。時間をかけずに手に入れたものよりも、長い時間をかけて手にしたものは、確実に皆さん一人ひとりを支える力となります。なので、自分のペースで一歩一歩、それぞれの道を行んでいって下さい。

「感謝」

日総3年2組担任

柴 佳絵

みんなと出会ったのは2年前でした。共に過ごしてきたみんなと別れることは寂しいですが、みなさんが自立していくことにワクワクしています。高校生活の中で一人ひとりが成長し、未来に向かって行くことに嬉しさを感じます。心よりお祝い申しあげます。2組は、学業も学校行事も男女仲良く、切磋琢磨しあってきました。互いに声を掛け協力し合い、大きな力となり様々な場面でたくさんの方を乗り越えてきました。今後も周りの支えに感謝し、人に温かい手を差し伸べてください。また、何事も精進して自己研鑽しましょう。自分の才能と個性を開花させ、社会で活躍し、自立する輝く人になってください。最後に、ありがとう。



「祝 卒業」

日総3年3組担任

乗添 修一

卒業おめでとうございませう。3年間、早いものですね。

3組の女子は落ち着いていて学習にも集中して取り組むことのできる模範的な生徒でしたが、逆に男子は元気で活発な生徒が多くよく注意していた記憶があります。ただ、一見男子と女子で相反するキャラクター構成に見えますが、文化祭や体育祭などの行事についての団結力は素晴らしい、本当に一人一人の異なるキャラクターがクラス全体として絶妙にマッチした明るく良いクラスでした。みなさん高校生活のよい思い出が作れたのではないのでしょうか？



「新しいは人生の宝探し」

日総3年4組担任

笠倉 教子

3年前の出逢いを振り返るとこの大切な宝物に感謝の気持ちでいっぱいです。

多感な時期の皆さんは、毎日楽しいことばかりではなかったことでしょうか。つらいこと、悲しいこと、いろいろな困難を乗り越えてきましたね。そしてそこには友達の支えがあったのではないのでしょうか。先生は4組の穏やかな温かいクラスの雰囲気が好きでした。きつとみんなもそうだったでしょう。これからも私たちはつながっています。この素晴らしい出逢いという財産に感謝して、新しい世界でもたくさんさんの宝物を得てください。



「新しい門出にあたり」

日総3年5組担任

金坂 正巳

「おめでとう」そして「ありがとう」の言葉をおくりませう。君たちの人生の中でおそらくもっとも多感な時期、その3年間を一緒に過ごせたことを本当に光栄に思います。

君たちの3年間は納得のいくものでしたか。全員が満足できる3年間ではなかったはずですが、これからは、失敗を恐れず積極的に色々なことに挑戦してください。やらないで後悔するような人生は送らないでください。君たちならきつと頑張れると思います。何十億もの人が住むこの広い世界で、君たちに出会うことができ、同じ時間を共有できたこの奇跡に感謝します。元気で。



「永遠のクラスメート」

国特3年6組担任

長田 光司

「『学校』という名の花壇に、『生徒』という名の種を蒔きませう。時には『喧嘩』という雨も降り、『仲直り』という太陽の陽がさしました。そして、『絆』という肥料を蒔きませう。するとそこには『友だち』という芽が出て、『親友』という葉が付き、『友情』という花が咲き、そして、『永遠』という名の種に戻るのです。」

毎日当たり前のように顔を合わせていた奇跡のような時間は終わり、旅立ちのときを迎えました。それぞれの道に進みますが、これからも励まし合い、高め合い続ける「永遠のクラスメート」であってほしいと思います。本当に素晴らしいクラスでした。ありがとう。



「楽しかった思い出を胸に」

国特3年7組担任

大塚友美子

ご卒業おめでとうございませう。時の流れは早く、三年前に入学した皆さんがもう本校を巣立って行く時になりました。あどけない表情の一年生が、今ではすっかり逞しく成長し見違えるようです。夢科宿泊学習での山登りやレクリエーションの思い出、オーストラリアへの修学旅行でのホームステイの思い出、三年間の文化祭や体育祭の思い出など、どれもこれも思い出すと楽しかったことばかりです。人はつらい時や苦しい時、楽しかった思い出を支えにして生きていくのではないのでしょうか。皆さんにとって高校時代の思い出がいつまでも輝くものでありますように。



平成 27 年度卒業生合格先区分別概況

1 国公立大学 合格者数 2名

大学名	合格数
茨城大学	1名
宇都宮大学	1名

* 合格数は平成 28 年 1 月 15 日までの在校生 201 名の結果です。

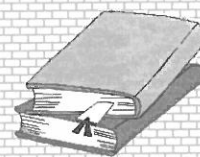
2 日本大学 合格者数 103名

学部名	合格数
法学部	13名
商学部	5名
危機管理学部	3名
工学部	18名
短期大学部	1名

学部名	合格数
文理学部	12名
芸術学部	1名
理工学部	11名
生物資源科学部	8名

学部名	合格数
経済学部	3名
国際関係学部	13名
生産工学部	14名
薬学部	1名

- 3 私立大学 合格者数 31名
- 4 私立短期大学 合格者数 4名
- 5 専門学校 合格者数 12名
- 6 就職 合格者数 3名



平成二十八年度日本大学付属推薦入試を振り返って

進路指導部主任 高村 潤

今年度より、日本大学付属推薦入試制度が変わり、新しい推薦方式となりました。そのことで、生徒はもとより、保護者の方々も不安をお持ちでいらつしやるかと思えます。そこで、今年度の新付属推薦入試を振り返り、保護者の方々に理解していただくことで不安を取り除き、ご家庭での今後のご指導に役立てて頂きたいと思えます。

さて、今年度の日本大学の合格実績は上記の通りで、この合格実績は、例年同様、それ以上に高い合格数で、日本大学を目指すクラスの中では76%以上の生徒が日本大学に進学することになります。日本大学を希望する生徒にとつて有利な推薦方式だと言えます。

また、日本大学の合格者の出願方式別に見てみると、合格者の内9割の生徒が付属推薦を利用しています（その他AO方式などの合格者がいます）。この付属推薦とは、さらに4種類の方式に分かれており、今回は主な二つの方式の状況を説明いたし

ます。まず、日本大学を希望する生徒は基礎学力選抜方式に参加することができます。この方式は、全ての学部学科で実施する主要な推薦方式で、後述する付属特別選抜方式では、医・歯・薬学部が参加せず、その他の学部学科も出願が制限されます。今年度は、文系は厳しい状況でしたが、理系については、主に土木・建築・情報系を除く学科では基準を満たしている生徒について、合格しやすい状況でした。注意すべきは、文系のセレクションについては、文理、芸術学部のように学科ごとに定員が少ないところは合否予測しづらい状況であるため、合格するには基準より大幅に成績順位を上げておく必要があることです。理系については、文系よりも成績順位が低くなる性質があるので、しっかりと基礎学力を身に付けてほしいと思います。

次に、基礎学力選抜が終わった後、付属特別選抜に出願することになります。今年度は、多数の生徒が基礎学力選抜方式に合

格したため、この方式での希望者が少なく、ほぼ全ての生徒が推薦されることになりました。ただし、各学部学科によって推薦要件が異なるため、前もって理解しておく必要があります。

最後に、保護者の方々にぜひお願いしたいことは、日大推薦は、一般入試とは異なり、1年次からの学習の進捗状況が進路結果に大きく影響します。そのため、早期に、生徒と保護者の間で、学力到達度テストの成績、評定平均値などを確認し、適切に学習を促すように指導していただきたいと思います。また、進路ガイドダンスなどの学校行事や大学で行われるオープンキャンパスなどに積極的に参加し、生徒と進路について話し合っていたいただき、具体的な目標を共有できるようにご指導をいただきたいと思えます。

格したため、この方式での希望者が少なく、ほぼ全ての生徒が推薦されることになりました。ただし、各学部学科によって推薦要件が異なるため、前もって理解しておく必要があります。

最後に、保護者の方々にぜひお願いしたいことは、日大推薦は、一般入試とは異なり、1年次からの学習の進捗状況が進路結果に大きく影響します。そのため、早期に、生徒と保護者の間で、学力到達度テストの成績、評定平均値などを確認し、適切に学習を促すように指導していただきたいと思います。また、進路ガイドダンスなどの学校行事や大学で行われるオープンキャンパスなどに積極的に参加し、生徒と進路について話し合っていたいただき、具体的な目標を共有できるようにご指導をいただきたいと思えます。



活躍する卒業生



おおさと さとし

■大里 聡

昭和 51 年 3 月 茨城県筑波町生まれ
 平成 3 年 筑波西中学校卒業
 平成 6 年 土浦日本大学高等学校岩瀬校舎卒業
 平成 13 年 北里大学獣医畜産学部 獣医学科卒業
 平成 13 年 埼玉県ノヤ動物病院に就職
 平成 24 年 筑西市にて「しもだてどうぶつ病院」を開業

私は現在筑西市で動物病院を開業し、犬猫の診療にあたっています。

若い頃私が「動物のお医者さん」を志した理由の一つに、捨てられた犬猫やそれらの交通事故に数多く遭遇した事があります。

当時の私はそれらと対峙する度、ただうろたえ、無力感に苛まれるだけでした。

そして現在、医療技術を身につけ、それらの鬱憤が晴れたかという、晴れるどころか、更に大きな根本的な問題に対峙しています。

茨城県では現在も毎年 約 5000 頭もの犬猫が処分され続けているのです。(これは全国ワーストワンの記録です)

動物を飼う上で「避妊去勢手術の実施」「猫の完全室内飼育や犬の繋留」が徹底されれば、捨てられる動物の数は減り、殺処分がゼロになる未来は来ます。

私は今日も獣医師として、いのちの尊さを解き、少しずつ犬猫の飼育のモラルを上げていきたいと思っています。

とだか まさひろ

■戸高 昌浩

昭和 50 年 栃木県野木町生まれ
 平成 3 年 野木第二中学校卒業
 平成 6 年 土浦日本大学高等学校岩瀬校舎卒業
 平成 10 年 帝京平成大学卒業
 平成 10 年 川口信用金庫に就職
 平成 12 年 YMCA 専門学校入学
 平成 20 年 株式会社日本ケアフロンティア設立

趣味：音楽鑑賞

特技：人を笑わせること

近況：小学校 1 年の息子がいるので、休みの日は息子と公園に行ったり、一緒にお風呂に入って癒されています。



『自分は何になりたいのだろうか!?どんな仕事がしたいのだろうか!?』まともに考えたのは、大学を卒業し、給料が高いたらからと入った信用金庫に勤めて 1 年経った 23 歳の頃でした。その時介護の仕事をやろうと決めたまっかけは単純で、おじいちゃん、おばあちゃんと過ごす時間が楽しかったから。

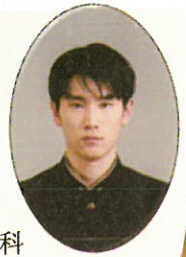
資格が必要と考え、24 歳で介護の専門学校で 1 年通い、有料老人ホームへ就職。仕事は重労働で給料は安い。典型的な介護現場でした。

食事介助、オムツ交換、入浴介助、月に 7 回程ある夜勤。やりがいはあるけれど、自分が思い描いていた介護とはかけ離れていて、34 歳の時、介護に対する考え方が近い仲間と会社を立ち上げることにしました。

一軒家。縁側で日向ぼっこしたり、散歩に出かけたり、買い物に行ったり、家族の介護負担も考え、泊まれる場所もある施設。大変ではありますが、仲間と試行錯誤しながら、充実した日々を楽しんでいます。

私の高校時代

田中 亘 先生 (保健体育科)



〈プロフィール〉

- 誕生日 昭和54年8月9日
- 出身地 つくば市
- 出身校 日本大学豊山高等学校
- 最終学歴 日本大学文理学部体育学科
- 好きな言葉

「不安やプレッシャーもあるが、それは
はねのけられるのは納得できる練習しかない」
「壁は、時にはぶつかり、時にはかわすもの」

げることができ、目標であった

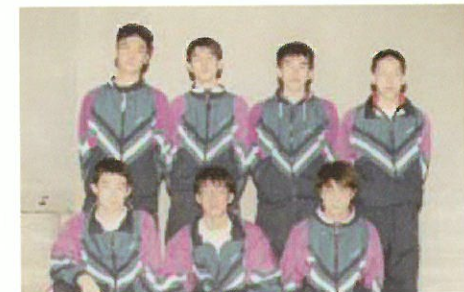
全国大会3種目出場を果たすことができ、結果だけではない、最後までやり遂げた充実感・達成感が人生の中で、とても良

い思い出として残っています。
部活動で学んだことは、技術だけではなく、「礼儀」や「協調性」や「責任感」といった社会

で生きていく上で

私の高校生活を振り返ってみると、卓球部に所属し部活動に専念していたことを思い出します。全国大会で勝てる選手になりたいという思いから、東京の私立学校に入学し、自宅のつくば市から池袋まで片道2時間かけ毎日通学していました。入学

当時は、練習は毎日厳しく、通学することで精一杯の日々を送っていました。また、卓球の実力もなかったことから誰からも相手にされなく、何度も心が折れそうになってしまいうこともありました。3年間部活動をやり遂



第24回全国高等学校選抜卓球大会

平成9年3月26日～28日 宇都宮市総合体育館



して「壁」を上手くかわして成長していくものです。教員になった現在、生徒と向き合いしっかりサポートをしていこうと思っています。その中で、壁のぶつかり方やかわし方を伝えていくと共に、自分も成長していきたいと思えます。



注目

応援も最高潮の盛り上がり

体育祭 10月23日(金)

編集後記

「桜真」第41号をお届けします。発刊にあたり、ご寄稿いただきました齊藤校長先生はじめ諸先生方、支部長及び役員の方々、生徒の皆様には、多大なるご協力を頂き厚くお礼申し上げます。

二年生が体験しましたオーストラリア修学旅行は、外国人との交流や異なる文化に直接接したことで、視野を広げ、国際感覚を養うとともに、改めて、日本や日本文化を見直し理解することに繋がったかと思えます。

三月には、三年生は卒業式を迎えます。三年生にとっては、岩瀬日本大学高等学校を卒業することがゴールで、ゴール地点がそれぞれの道へのスタート地点です。その道は、大変辛い棘(いばら)の道かもしれないけど、何事も失敗は恐れず、高い志を抱き、自分の進むべき道を一生懸命突き進んで行かれることを心より祈っています。

最後に、岩瀬日本大学高等学校並びに会員の皆様方、そして卒業生及び在校生の今後益々のご発展とご活躍をご祈念申し上げます。

広報委員長
廣瀬 亨(県西支部)